Waseda University School of Social Sciences

早稲田大学 社会科学部

https://www.waseda.jp/fsss/sss/

全国自己推薦入学試験 2026年度

出願期間
2025年
9月24日(水)～
9月30日(火)

プラスアルファ +αの個性

勉学に励みつつも、
それ以外の何かにも取り組んできた人、
いわゆる受験勉強に力点をおいてきた人とは
一風異なった、「+αの個性」を持つ人を
対象としています。

地域性重視

異なる地域、文化で育まれた精鋭が全国から集えば、
活気が生まれ、互いに刺激しあいながら成長できる―。
「全国自己推薦入学試験」は、こうした効果を期待しています。
これは、本学部が掲げる“社会に開かれた学部”
という理念にもつながっています。

全国自己推薦入学試験とは

個人の優れた資質と活動実績のある者を幅広く日本国内および世界より求めています。

出身学校(長)からの推薦書を必要とせず、高等学校または中等教育学校後期課程在学中のさまざまな活動歴をもとに、受験生の皆さんが「自分自身を社会科学部に推薦する」入試制度です。
全国で初めて(1989年)、社会科学部が、受験生の“個性”を評価するために創設しました。それとともに、“地域性”を重視し、日本全国を7つの地域ブロックに分け、各ブロックから5名程度の合格者を出すことを目標にしています。
“ 個性 ”と“ 地域性 ”を二本柱とする「全国自己推薦入学試験」へ、積極的にチャレンジしてください。

Interview

2024年度入学
上村 日向子（うえむら ひなこ） さん
青森県八戸聖ウルスラ学院高等学校 卒業

高校ではどのような活動をしていましたか？

大きく二つにまとめると生徒会活動と放送委員会などでの表現活動に力を入れていました。

まず、生徒会では生徒会長として「多くの生徒の声を取り入れた生徒会」を目指して活動していました。具体的には、昼食時間の校内ラジオと実行委員制度の設置です。これらの活動を通して全校生徒を巻き込んだ校内全体の活性化を図りました。高校1・2年生の頃、新型コロナウイルスの影響を受け、昼食時間の私語が禁止されたり、行事が中止・縮小されたりと学校生活が制限されていました。そこで、静まり返った昼食時間を少しでも楽しんでもらおうと生徒や先生をゲストに招いた校内ラジオを企画し、地元紙にも取り上げていただきました。兼任していた放送委員会と連携し、毎週さまざまな企画を行い、アンケートボックスなども使用して双方向性のあるラジオを目指しました。普段関わることのない学年・クラスの生徒、先生方とのつながりをラジオを通して作ることができたと感じています。また、コロナ禍により中止・縮小されていた学校行事を復活させる上で、生徒会内部の意見だけではなく、より多くの生徒からの意見を取り入れることが必要不可欠だと考えました。これまでは、生徒会に所属する生徒のみが行事の運営方法や企画などを考えるという閉鎖的な仕組みで行事の内容が決定されてきました。そこで、行事ごとに実行委員を募り、過去の踏襲や教員主導のものではなく、生徒たち自身の声を活かした行事を作れるような体制を構築しました。その結果として、制限の中でも生徒が納得して楽しめるような行事のあり方や企画が生まれました。

次に、表現活動としては、主に放送やビブリオバトル、ディベートや通訳ボランティアなど「ことば」を通した活動をしてきました。

放送では、放送委員会アナウンス部として日々の校内放送や学校行事の司会に加え、放送コンテストに出場してきました。アナウンス部門では、自身で題材を決め、取材し、原稿を作成して発表します。聞いただけでも内容が伝わるわかりやすい原稿と、情景を思い浮かばせるような読みを意識してアナウンスと向き合ってきました。その甲斐もあってか、地元のゆるキャラ・イカドンなど地域の魅力をさらに高めることば選びで原稿を作成し、高校総合文化祭全国大会に2年連続で出場、3年次にはNHK杯全国高校放送コンテストにも出場することができました。また、地元新聞社主催のビブリオバトルに参加し、自分の好きな本の魅力を自分なりのことばで伝え、紙面上で紹介していただきました。米軍基地内での通訳ボランティアや即興型英語ディベート大会にも挑戦しました。こうした多種多様な経験を積むことで自身の表現の幅が広がったと感じています。

社会科学部を志望し、「全国自己推薦入試」で受験しようとしたのはなぜですか？

社会科学部に興味を持ったのは、高校主催の首都圏大学見学会で早稲田大学を訪れ、キャンパスツアーに参加したことがきっかけです。キャンパスツアー内で、社会科学部は学際的に幅広く学ぶことができ、かつ約60もの多様なゼミの中から自身の興味を深掘りすることができるとの説明を受けました。当時、どの分野を大学で専門的に学ぶのか決めかねていた私にとって、選択肢が多数用意されている社会科学部はとても魅力的に感じました。また、キャンパス内の学生の生き生きとした活力に溢れた空気感にも強く惹かれたのを覚えています。その後、オープンキャンパスで笹原宏之教授の模擬講義を受講し、「ことば」をツールとしてではなく観察対象として捉えることで、社会の変化を見ることができ、「ことばは社会を映す鏡」ともいえることを知りました。正解を覚えるのではなく、なぜそうなるのか、社会や現象の裏にあるプロセスを考え、答えのない問いを考える、という大学ならではの学びの形を見て笹原教授が在籍する社会科学部に入りたいと考えました。

全国自己推薦入試での受験を選んだ理由は、「＋αの個性」として自分自身が今まで力を入れてきたことが評価される方式だったからです。私は、高校3年間を通して生徒会や放送、ビブリオバトル、通訳ボランティアなどさまざまなことに挑戦してきました。多様な活動に挑戦し、たくさんの時間を費やして努力を重ねてきたと胸を張って言えます。そのため、今まで積み上げてきた私なりの努力の形で、どのように評価されるのか挑戦してみたいと思い、全国自己推薦入試での受験を決めました。

実際に社会科学部に入学してみて、どう感じていますか？

履修することのできる授業の多さ、学生数の多さにとても驚きました。社会科学部が開講している科目だけでも、政治学、経済学、社会学、哲学など多種多様な科目が用意されており、初めての履修登録ではかなり頭を悩ませました。社会科学部の科目だけではなく、グローバルエデュケーションセンターや他学部提供科目も用意されており、何でも学ぼうと思えば学ぶことができる環境が用意されています。さまざまな学問分野を学ぶことができる分、どのように自身の専門分野を決め、将来につなげるのかが重要になってくると感じています。

また、社会科学部には母校の高校の全校生徒数をはるかに超える学生が日本全国、世界各国から集まっています。そのためたくさんの出会いがありました。また、学際的に学べる社会科学部だからこそ、それぞれの興味関心も多岐にわたります。授業内でのグループディスカッションなどでは、異なる視点からの考え方を知ることができとても刺激的です。

現在、力を入れて取り組んでいることはなんですか？

社会言語学とマルチメディア系の分野に力を入れています。笹原教授の授業を履修し、その人の年齢や所属、趣味嗜好を反映する「ことば」など、「ことば」と社会のつながりを学んでいます。また2年次秋学期からのゼミナールでは笹原教授の「メディアと言語の研究ゼミ」でSNSで見られることばについて研究したいと考えています。また、全学オープン科目で情報科学系やマルチメディア系の授業も履修しています。加えて、サークルでは放送研究会に所属し、撮影や動画編集といったマルチメディアを活用したコンテンツの制作に取り組んでいます。

これからの受験生へ向けて、一言お願いします！

私にとって全国自己推薦入試は、自分が今までたどってきた道、これから進みたい道を見つめ直すことのできた非常に貴重な機会でした。悩んでいた時間も、準備にかけた時間も、小論文や面接に緊張しながらも闘った時間も、大変ではありましたが今となっては人生の宝物です。

受験期は迷うことがたくさんあると思います。私自身もいろいろな不安や葛藤があり、全国自己推薦入試の受験を決意するまでに何度も何度も悩みました。悩みに悩んで苦しいときには、一人で抱え込みすぎず、まずは誰かに相談してみてください！きっとさまざまな見方やアドバイス、情報がもらえると思います。それらを踏まえてまた考えてみてください。頼れるものには頼り、心と身体の安定を保つのも受験においては重要です。最後は自分の心に従って、今までの自分に自信を持って突き進んでみてください。応援しています。

出願資格

以下の1～5の「すべて」に該当する者

1. 2025年3月に高等学校または中等教育学校後期課程を卒業した者、または2026年3月までに高等学校または中等教育学校後期課程を卒業見込みの者。
2. 2025年3月に卒業した者は、高等学校または中等教育学校後期課程卒業時における全体の評定平均値が4.0以上の者。2026年3月までに卒業見込の者は、1年1学期または前期から3年(4年制定時制は4年)1学期または前期までの全体の評定平均値が4.0以上の者。
3. 2025年3月に卒業した者は、高等学校または中等教育学校後期課程卒業時における調査書記載の欠席日数が45日以内(4年制定時制は60日以内)の者。2026年3月までに卒業見込の者は、1年1学期または前期から3年(4年制定時制は4年)1学期または前期までの調査書記載の欠席日数が45日以内(4年制定時制は60日以内)の者。
4. 高等学校または中等教育学校後期課程在籍期間の活動において、次の1つ以上に該当する者。ただし、資格に関しては、高等学校または中等教育学校後期課程在籍期間以前に取得したものによる出願も受け付ける。
   - 学芸系またはスポーツ系クラブなどに所属し、都道府県以上の大会・コンクール・展覧会などにおいて優秀な成績を収めた者。
   - 生徒会活動において、めざましい活躍をした者。
   - 資格(語学検定や財務・会計資格など)を有する者。
   - その他、学校外での諸活動(クラブ活動、ボランティア活動など)において、めざましい活躍をした者。
5. 英語外部検定試験のうち、以下の基準点を満たすスコアをいずれか1つ提出できる者。
   - 実用英語技能検定(CSEスコア):1,950以上　● GTEC CBT:930以上　● IELTS:4.0以上　● TEAP:225以上
   - TOEFL iBT:42以上　● TOEIC L&R / TOEIC S&W:1,150以上

※TOEIC L&R/TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアとする。
※出願期間以前に取得したスコアに限り有効とする。なお、2025年3月に卒業した者は、前文の条件を満たす場合において、卒業後に取得したスコアも出願資格として有効とする。

入試スケジュール

＊下記のスケジュールは変更になる可能性があります。最新情報は入試要項および社会科学部Webサイトを必ず都度ご確認ください。

7月　上旬	入試要項公開（予定）	学部Webサイト(左ページ下)で入試要項の公開を予定しています。 出願書類の作成、活動記録の裏付けとなる資料の収集等には時間がかかるため、余裕を持って早めに入手してください。
9月24日(水) ～ 9月30日(火) (締切日消印有効)	出 願（郵送による受付）	入試要項にしたがって出願書類を作成し、郵送で提出します。 第一次選考(書類選考)の検定料は10,000円(第二次選考の検定料は25,000円)です。 以下の諸点を考慮のうえ、選考します。 ●成績評価　●活動記録(大会記録・生徒会活動・学校外での諸活動・資格など) ●出席状況　●その他
11月7日(金)	第一次選考合格発表	下記Webサイトで発表します。
11月16日(日)	第二次選考（試験選考）	早稲田キャンパスで行います。小論文 ＋ 面 接
12月12日(金)	第二次選考合格発表	下記Webサイトで発表します。
12月15日(月)～ 12月22日(月)	入学手続（一次）	登録料(入学金相当額)および学費等を振り込むことで完了します。 ※3月中旬に二次手続があります。

▶ 早稲田大学 社会科学部　https://www.waseda.jp/fsss/sss/

Q&A

Q：卒業見込の者と既に卒業した者のそれぞれに、合格枠を設けていますか?
A：いいえ。合格枠を分けず、同じ基準で選考しています。

Q：他学部や他大学と併願することはできますか?
A：はい。できます。

Q：在籍する高校が2学期制のため、3年生前期の成績が反映された調査書を出願期間内に提出することができません。どうしたらいいでしょうか?
A：2年生の後期までの成績が記載された調査書を出願時に提出してください。その上で、調査書の備考欄にそのことを記載してください。3年生前期までの内容を記載した調査書は、2025年10月9日（木）までに、全国自己推薦入試係まで「簡易書留・速達」で提出してください。

Q：出願資格４の中の「その他、学校外での諸活動」とはどのようなものですか?
A：高校生活とは直接関係のないもので、学芸系・スポーツ系・ボランティア活動など、あらゆる個人的活動を意味します。めざましい活躍を客観的に証明する資料をご用意ください。

◆選考方式

- **日本全国を7つの地域ブロックに分け、ブロック単位で合格者を出す方式とします。**
- **地域ブロックの構成は図の通りとします。**
- **各地域ブロックから5名程度の合格者を出すこととします。**

※地域ブロックは、原則として出身高校所在地による区別となります。ただし、通信制高校の場合は志願者本人の現住所（調査書記載の現住所）による区別とします。

① 北海道・東北ブロック
北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島

② 北関東・甲信越ブロック
茨城・栃木・群馬・新潟・山梨・長野

③ 南関東ブロック
埼玉・千葉・東京・神奈川

④ 東海・北陸ブロック
岐阜・静岡・愛知・三重・富山・石川・福井

⑤ 関西ブロック
滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山

⑥中国・四国ブロック
鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知

⑦ 九州・沖縄ブロック
福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

◆過去3ヵ年の志願者・合格者数

年度	志願者数	合格者数
2025	264人	39人
2024	222人	39人
2023	302人	39人

◆これまでの合格者の優秀活動成績例

- 囲碁U-20世界大会優勝
- 囲碁全国大会優勝
- 将棋全国大会優勝
- 全国放送コンテスト文部科学大臣賞
- 珠算全国大会優勝
- 電卓全国大会優勝
- 競技かるた全国大会優勝
- 読書感想文全国コンクール内閣総理大臣賞
- エッセイ全国コンテスト大賞
- 弁論全国大会優秀賞
- SGH甲子園最優秀賞
- 全日本吹奏楽コンクール金賞
- 箏曲全国大会文部科学大臣賞
- 吟詠全国大会優勝
- 情報処理全国大会優勝
- 全国高校総合文化祭優勝
- 生徒会活動全国大会入賞
- 英語ディベート世界大会優勝
- 英語弁論全国大会入賞
- 英語論文発表世界大会入賞
- 鉄道模型世界大会入賞
- 執筆活動
- excel世界大会優勝
- 日本奏楽コンクール全国大会優勝
- 平和活動（ユース非核大使）
- 俳句甲子園全国大会3位
- 書道全国大会奨励賞
- 新聞年間紙面審査賞全国大会最優秀賞
- ビジネスコンテスト全国大会大賞
- アメフト全国大会優勝
- ウエイトリフティング全国大会優勝
- 弓道全国大会準優勝
- 硬式／軟式テニス全国大会優勝
- 硬式／軟式野球全国大会優勝
- 剣道全国大会優勝
- 柔道全国大会優勝
- 少林寺拳法全国大会優勝
- サッカー全国大会優勝
- 水泳競技アジア大会準優勝
- アイスホッケー全国大会優勝
- スケート国際大会第3位
- 相撲全国大会優勝
- ソフトボール全国大会優勝
- 卓球全国大会優勝
- バスケットボール全国大会優勝
- バドミントン全国大会優勝
- ラグビー全国大会優勝
- レスリング全国大会優勝
- 一輪車国際大会優勝
- ヨット全国大会優勝
- バレーボール全国大会優勝
- フェンシング全国大会2位

など

お問い合わせ先

早稲田大学　社会科学部「全国自己推薦入学試験」係

この入学試験に関する問い合わせ等は、右記の所定フォームよりお願いします。▶

〒169-8050　東京都新宿区西早稲田1-6-1
https://www.waseda.jp/fsss/sss/
〈窓口受付時間〉月～金／ 10:00 ～ 16:00

https://forms.office.com/r/C5HWj7wdFZ